

## スマートテレビ時代における字幕等の在り方に関する検討会（第3回）議事要旨

### 1. 日時

平成26年6月24日（火）13時00分～14時10分

### 2. 場所

総務省8階 第1特別会議室

### 3. 出席者

#### （1）構成員

多賀谷座長、高橋座長代理、石戸構成員、井上構成員、黄木構成員代理（堂元構成員の代理出席）、音構成員、近藤構成員、坂内構成員、島田構成員代理（高嶋構成員の代理出席）、鈴木構成員、藤川構成員代理（佐治構成員の代理出席）

#### （2）総務省

上川総務副大臣、藤川総務大臣政務官、桜井総務審議官、鈴木大臣官房総括審議官、福岡情報流通行政局長、南大臣官房審議官、奈良総務課長、長塩地上放送課長、徳光地域メディア室長、野崎放送技術課長、湯本情報通信作品振興課長、鈴木衛星・地域放送課長

### 4. 議事要旨

#### （1）藤川総務大臣政務官挨拶

開会に当たり、藤川総務大臣政務官より挨拶が行われた。

#### （2）各ワーキンググループ主査報告

多言語字幕ワーキンググループの鈴木主査、CM字幕ワーキンググループの音主査から、各ワーキンググループの取りまとめについて、それぞれ資料に基づき報告が行われた。

#### （3）事務局説明

事務局より資料に基づき、本検討会の取りまとめ案について説明が行われた。

#### （4）意見交換（構成員等の主な発言は以下のとおり）

##### ○近藤構成員

- ・多言語字幕の実証実験では、語学が堪能なシニアボランティアの在宅ワークとして、収録番組の翻訳作業、例えば子供番組の多言語字幕化とかに参加してもらうことを検討していただきたい。

○石戸構成員

- ・多言語字幕については、訪日外国人に対する字幕だけでなく、字幕を使った外国語学習や、多言語翻訳システムを応用したデジタル教科書など、教育面での活用に期待。サービスの実現のため、翻訳精度向上や実証実験にぜひ取り組んでいただきたい。
- ・CM字幕については、今後関係3団体が連携した協議会が設立されて、字幕付きCMの早期普及に向けて取り組まれるということが本検討会の大きな成果。

○坂内構成員

- ・多言語字幕の取りまとめについて、機械翻訳の重要性を改めて認識した。ミッションを明確にするという意味での確かな指針を与えていただいた。大学等と連携してしっかり取り組むべきという指摘もいただいております、改めて使命を感じている。
- ・技術的には、既存の放送素材をもとにしたコーパスの蓄積が必須であり、新しい技術開発も必要なので、NHK等の放送事業者をはじめステークホルダーと連携を深めて進めていきたい。

○鈴木構成員

- ・翻訳精度の向上のためにはコーパスの充実が重要であり、放送事業者からの提供についても、所要の契約等があればきちんとした上で、活用していく道ができれば大変役に立つ。

○多賀谷座長

- ・皆様からのご意見について、事務局においては可能な限り、取りまとめに反映させるようお願いします。
- ・検討会の最終的な取りまとめの文言や報道発表の時期等については私にご一任願えますか。

(構成員から異議なしとの発言あり)

- ・残された時間の中で、今後の取組方針や期待、感想等があればご発言願いたい。

○石戸構成員

- ・多言語字幕、CM字幕は、外国人や聴覚障害者だけでなく、日本人や健聴者にとっても非常に有益なものだと思う。今回の取りまとめで取組が終わるのではなく、引き続き、国として力強く推進していただきたい。2020年の東京オリンピックの時に大

きな成果が上がっていることを期待している。

○音構成員

- ・CM字幕ワーキングの取りまとめについて、構成員の方々にご苦勞をおかけしたが、障害者の方々からいただいたご意見を反映させることができた。広告業協会、広告主協会、民放連の3団体にも調整いただき、CMという非常に難しい内容について、取りまとめと、この後に向けた議論の場を用意いただけることに感謝申し上げる。これをステップにして、次のフェーズに進んでいただきたい。

○近藤構成員

- ・高齢者にはスマートフォンのワンセグでテレビを見るのが人気だが、端末によっては字幕を表示する操作が難しく、メーカーに働きかけをしている。シニアが子どもたちにスマートフォンの使い方を教える講座を始める予定であり、そういった活動の中で多言語字幕やCM字幕を活用させていただきたい。

○鈴木構成員

- ・2020年の東京オリンピックをピークにせず、次の段階に進むことが必要であり、日本語を外国語として使う方に対するサービスは非常に重要。逆に、外国で頑張る日本の同胞に向けて、現地の言葉と日本語と両方で放送するような取組も重要。双方向ということ意識して多言語字幕サービスを育てていく必要がある。

○井上構成員

- ・字幕付きCMについて、民放連では4年前からトライアルを積み重ねてきたが、今回の検討会でこれまでの取組を多角的に見直すことができた。有識者の方に加えて、広告主協会、広告業協会の方とも実務的な話ができたとした。
- ・CM字幕の取りまとめは問題点を的確に指摘いただいている。民放連としてはこれを踏まえて、来月の営業委員会で新たな対応方針を取りまとめる予定。複数提供番組でのトライアルの開始などを盛り込む。また、2団体と一緒に設置する協議会などを通じて、字幕付きCMの普及に向けて取り組んで参りたい。
- ・多言語字幕について、2020年の東京オリンピック、パラリンピックでの実現を目指し、自動翻訳システムの精度向上など必要な技術革新の進展を期待している。

○黄木構成員代理

- ・多言語字幕サービスの実現に向けた自動翻訳精度の向上については、2020年の実用化となると時間がない。分野や対象を絞り込み、集中的に研究することも必要。

- ・対訳コーパスの収集については、放送事業者の放送データだけではなく、それ以外の媒体と併せて進めることを期待。自動翻訳のような研究のために放送番組を録画して利用することは、著作権法上は数年前からすでに許諾不要と聞いている。NHKの番組が役に立つのであれば幸い。
- ・NHKとしてどのような形で対訳コーパスの充実に協力できるのか、現在調査中であり、その結果も踏まえて検討していきたい。

#### ○坂内構成員

- ・ロードマップ、提言は実践的にまとめていただいております、我々が明日から実行していくものとして認識している。多言語字幕が我が国のグローバルコミュニケーション戦略の柱になっていくためには、実用化できるところから実用化する等、スピード感を持って実践的に取り組みたい。

#### ○藤川構成員代理

- ・今秋予定の字幕付きCMの普及推進協議会に向けて、広告主協会内の体制を整備していく。トライアル実施社は会員社であり、意見を取りまとめ、普及を進めていきたい。
- ・BSは全国放送であり、高齢者が興味を持つような番組が編成されており、字幕付の優先度が高いと考える会員も多い。全国展開する企業に対する普及活動も進めていきたい。

#### ○島田構成員代理

- ・字幕付きCMについて、約2,000万人もの耳の聞こえにくい方に対するビジネスの機会損失が起こっている可能性や、現状の課題について解決の方向性が明らかになった。
- ・今回の取りまとめは重く受け止めている。広告主に対して、日々の活動の中で字幕付きCMの意義をアピールしていきたい。「作業進行要領」をさらに改善するとともに、広告会社やポストプロダクションの育成を図っていきたい。
- ・3団体による協議会についても実りがあるように取組に努力したい。国からの支援についてもよろしくお願ひしたい。

#### ○多賀谷座長

- ・訪日外国人だけでなく在留外国人も今後増加するだろう。今後は英語よりも、中国語、韓国語、あるいはインドネシア語、ベトナム語への対応も必要となり、多言語字幕の技術は非常に重要。現在は英語で経済交流しているが、アジアの経済交流が盛んになれば多言語字幕の双方向の技術が活用されることになるだろう。今後の発展に期待す

る。

- ・CMは民放の収入源であり、真の商品とも言える。ユーザーに対して、色々な角度から十分な情報提供をするのは商品提供者としての責務。インターネット広告が伸び、放送による広告が脅かされているようだが、インターネット広告はプライバシー侵害のような問題が出てきている。広告に字幕を付けることによって、放送型の広告が生き残れば、ユーザーにとって安心な媒体となるのではないか。その意味で、CM字幕は放送型サービスが生き残るために必要不可欠なサービスではないか。
- ・関係団体のみなさまにおかれては、本検討会の提言の趣旨を十分に踏まえて今後の取組を進めていただきたい。

#### (5) 上川総務副大臣挨拶

検討会の最終回に当たり、上川総務副大臣より挨拶が行われた。